■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.

スコ	アシー	-	実施設計段階						
配慮	項目			環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	全体
			境品質						3.5
	室内理					0.40		-	3.3
1 ,	音環境		7		3.9	0.15	•	-	3.9
-		室内縣 遮音	蚤音レベル	40dBを目標騒音値としている	4.0 4.4	0.40 0.40	-	-	
	1.2		開口部遮音性能		5.0	0.40	•		
		2	界壁遮音性能		3.0	0.30			
		3	界床遮音性能(軽量衝擊源)	Lr-35の計画としている	5.0	0.20		_	
		4	界床遮音性能(重量衝擊源)	Lr-45の計画としている	5.0	0.20		_	
-	1.3	吸音	7 MAC H 1210 (22 12 13 13 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14	_	3.0	0.20	+	-	
2	温熱環				3.0	0.35		-	3.0
	2.1	室温制	l御		3.0	0.50	-	-	
		1	室温	_	3.0	0.60	-	-	
			外皮性能	_	3.0	0.40	-	-	
-			ゾーン別制御性	_	-	-	-	-	
-		湿度制		[-	3.0	0.20	-	-	
		空調力	式	_	3.0	0.30	*	-	
3	光·視		W.T.		3.1	0.25	-	-	3.1
	3.1	昼光和		_	1.8	0.30	-	-	
		1	昼光率 本位別問口	<u> </u>	1.0	0.60	*	-	
			方位別開口 昼光利用設備	_	3.0	0.40	*	-	
-	2 2	ー <u>ュー</u> グレア			3.0	0.40	-	-	
	3.2	1	^{対策} 昼光制御	_	3.0	1.00	-		
-	3 3	<u></u> 照度	生儿 叩 呼	_	3.0	0.15	_		
-		照明制	 	昼光センサーで自動照明制御が可能	5.0 5.0	0.15		_	
4		質環境	2 beds		3.5	0.25		-	3.5
ľ		発生源			4.0	0.50	-	-	
		1	化学汚染物質	ほぼ全面的にF☆☆☆☆を採用	4.0	1.00	-	-	
-	4.2	換気	10 3 7 3 3 1 1 3 2 1		2.3	0.30	-	-	
			換気量	-	1.0	0.33	-	-	
		2	自然換気性能	-	3.0	0.33		-	
		3	取り入れ外気への配慮	-	3.0	0.33	+	-	
	4.3	運用管	理		4.0	0.20	-	-	
		1	CO₂の監視	_	3.0	0.50	•	-	
			喫煙の制御	全館禁煙である	5.0	0.50		-	
		ビス性	能		_	0.30	-	-	4.0
1 r	機能性		I Maria II I		3.9	0.40	-	-	3.9
	1.1		Ŀ・使いやすさ		5.0	0.40	-	-	
			広さ・収納性		-	-		-	
			高度情報通信設備対応 バリアフリー計画	」 誘導基準を満たしている	F.O	1.00		-	
-	1.0			の守卒中で河にしている	5.0 2.5	1.00	-	-	
	1.2	心理的	Ŀ・快適性 ┃広さ感・景観	_	2.0	0.30 0.50	•	_	
		2	リフレッシュスペース	 _	2.U *	-		-	
			内装計画	i –	3.0	0.50		_	
	1.3	維持管			4.0	0.30		-	
			維持管理に配慮した設計	トイレに防汚性の高い床・壁仕上げを採用する等	5.0	0.50	-	-	
		2	維持管理用機能の確保	_	3.0	0.50	-	-	
2		生・信頼			4.5	0.30	-	-	4.5
	2.1		免震・制震・制振		5.0	0.50	•	-	
			耐震性(建物のこわれにくさ)	基準の50%増の耐震性を有している	5.0	0.80		-	
			免震•制震•制振性能	基礎免震を採用している	5.0	0.20	•	-	
	2.2		部材の耐用年数		3.6	0.30	•	-	
			躯体材料の耐用年数	ー フリラ制 パナリ 仕 ト - Al へ パナリ で (人)かか ナル しょう	3.0	0.20		-	
			外壁仕上げ材の補修必要間隔	アルミ製パネル仕上、ALCパネル吹付塗装仕上げ 床:ビニル床シート、壁:EP-G、天井:化粧GB	5.0	0.20	•	-	
		3	エストスはニットラスかんという	M.C -ルルソード、空にピーは、大井川し社はB 	5.0	0.10	-	-	
		4	空調換気ダクトの更新必要間隔 空調・給排水配管の更新必要間隔	<u> </u>	3.0	0.10	•	-	
		5			3.0 3.0	0.20 0.20		-	
	2.4	6 信頼性	主要設備機器の更新必要間隔 -	1	3.0 4.6	0.20	-	-	
	2.4	古棋出		 換気空調共に重要度の高い系統は災害時も優先的に運転すること	4.0		•	-	
		1	空調•換気設備	ができる等	5.0	0.20		-	
		2	▲ 給排水·衛生設備	汚水槽を設置している等	4.0	0.20		_	
		3	電気設備	二回線受電を採用している等	5.0	0.20		-	
		4	機械・配管支持方法	耐震クラスSを確保	5.0	0.20	-	-	
			通信·情報設備	通信手段の多様化を図っている等	4.0	0.20		-	
			III TELBES HILL		-		B		

3				_					
	対応性	性·更新	性		3.7	0.30	-	-	3.7
	3.1	空間σ	つゆとり		4.6	0.30	-	-	
			階高のゆとり	3.9m以上の階高を確保	5.0	0.60		_	
			空間の形状・自由さ	0.1以上0.3以下の壁長さ比率を確保	4.0	0.40		_	
-				3500N/㎡以上積載荷重を確保				_	
		<u>荷重σ</u>		330011/ III 以工負戦何里で唯休	4.0	0.30	-	-	
	3.3	<u>設備σ</u>	更新性		3.0	0.40	-	-	
		1	空調配管の更新性	_	3.0	0.20	-	-	
		2	給排水管の更新性	_	3.0	0.20	-	-	
			電気配線の更新性	_	3.0	0.10		_	
				_					
			通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
			設備機器の更新性	_	3.0	0.20	•	-	
		6	バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	*	-	
Q3	室外	環境(集	敦地内)		_	0.30	-	-	3.4
			呆全と創出	_	3.0	0.30	-	_	3.0
			観への配慮	既存の植栽を保存している等	4.0	0.40			4.0
				以行の他然と体行している寺			•	-	
3			ニティへの配慮		3.0	0.30	-	-	3.0
			とへの配慮、快適性の向上	_	3.0	0.50	•	-	
	3.2	2.敷地内	R温熱環境の向上	_	3.0	0.50	-	-	
LR	建築	物の野	環境負荷低減性			-		-	3.6
		ルギー			_	0.40	_		3.5
			神色共物 型	BPI=0.6					
			熱負荷抑制	DF 1—0.0	5.0	0.20	•	-	5.0
			一利用		3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備シ	システム	の高効率化	BEI=0.59、LED照明設備を採用している	3.1	0.50	+	-	3.1
		集合住	E宅以外の評価		3.1	1.00	-	-	
			E宅の評価		-	-	*	-	
4		的運用		1	3.5	0.20	+	_	3.5
ľ	₩ <u>₩</u>				3.5	1.00			0.0
				主亜な田冷別にエクリギー 淡黒の中部ナ 柳根にマ いて			•	-	
			モニタリング	主要な用途別にエネルギー消費の内訳を把握している	4.0	0.50	•	-	
		4.2	運用管理体制] -	3.0	0.50	+	-	
		集合住	- 宅の評価		-	-	-	-	
			モニタリング	_		_	+	_	
				_					
	MA NE		運用管理体制			-	•	-	4.0
		・マテリ	アル		_	0.30	-	-	4.0
1	水資源	源保護			3.8	0.20	•	-	3.8
	1.1	節水		節水型便器などを採用している	4.0	0.40		-	
			川用・雑排水等の利用		3.7	0.60	-	_	
	1.2		雨水利用システム導入の有無	井水利用をしている	4.0	0.70			
				カスペッカルと C C V ~ S				-	
			雑排水等利用システム導入の有無	_	3.0	0.30	-	-	
2	非再生	生性資源	原の使用量削減		4.3	0.60		-	4.3
	2.1	材料使	戸用量の削減	F.T.Pile構法等を採用	4.0	0.10	-	-	
			皇築躯体等の継続使用	_	3.0	0.20		_	
			対料におけるリサイクル材の使用	基礎に高炉セメントを使用	5.0	0.20			
				再生クラッシャラン等の採用				_	
			14 507 1 - 00 17 @ 7 7 1 7 7 7 1 4 7 2 7 13	丹王グラックヤラン寺の採用	5.0	0.20	*	-	
	2.5	持続可	J能な森林から産出された木材	_	3.0	0.10	•	-	
	0.6	±π++σ)再利用可能性向上への取組み	LGSを採用することにより、躯体と仕上材が容易に分別可能となって	F 0	0.00			
	2.0	可) 村(U.	一番利用可能性向上への取組の	いる等	5.0	0.20	•	-	
3	活染物	物質会な	有材料の使用回避		3.7	0.20		-	3.7
ľ			質を含まない材料の使用	対象物質を含有しない建材を3種採用している	4.0	0.30		_	
	3.2		・ハロンの回避	ウェギュッル 乱性 4 福田 L インフ	3.6	0.70	+	-	
			消火剤	窒素ガス消火設備を採用している	4.0	0.33	*	-	
		2	発泡剤(断熱材等)	ポリスチレンフォーム等を採用	4.0	0.33	•	-	
		3	冷媒	_	3.0	0.33	-	-	
L R3	動地な	外環境			_	0.30	_	-	3.4
			, への配慮	ライフサイクルCO2排出率71%	4.1	0.33			4.1
				/1// 1/// UN UN THE TIME			•	-	
2		環境への			3.0	0.33	-	-	3.0
			5染防止	 -	3.0	0.25		-	
		温熱環	環境悪化の改善	 -	3.0	0.50	-	-	
	2.2			1	3.0	0.25		_	
			ンフラへの負荷抑制			0.23			
		地域イ	ンフラへの負荷抑制 雨水排水角荷低減	_					
		地域イ	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
		り り り り り り り り り り り り り り り り り り り	雨水排水負荷低減 汚水処理負荷抑制	_ _	3.0 3.0	0.25 0.25	-	- -	
		3 地域イ 1 2 3	雨水排水負荷低減 汚水処理負荷抑制 交通負荷抑制	_ _ _	3.0	0.25 0.25 0.25		- - -	
		3 地域イ 1 2 3	雨水排水負荷低減 汚水処理負荷抑制	_ _ _ _	3.0 3.0	0.25 0.25		- - -	
	2.3	3 地域イ 1 2 3	雨水排水負荷低減 汚水処理負荷抑制 交通負荷抑制 廃棄物処理負荷抑制	- - - -	3.0 3.0 3.0	0.25 0.25 0.25		- - - -	3.1
	2.3	3 1 2 3 4 環境への	雨水排水負荷低減 汚水処理負荷抑制 交通負荷抑制 廃棄物処理負荷抑制 D配慮	 	3.0 3.0 3.0 3.0	0.25 0.25 0.25 0.25		- - - -	3.1
	2.3	3 地域イ 2 3 4 環境への 騒音・	雨水排水負荷低減 汚水処理負荷抑制 交通負荷抑制 廃棄物処理負荷抑制 の配慮 振動・悪臭の防止		3.0 3.0 3.0 3.0 3.1 3.0	0.25 0.25 0.25 0.25 0.33 0.40		- - - -	3.1
	2.3	3 1 2 3 4 環境への 軽音・1	雨水排水負荷低減 汚水処理負荷抑制 交通負荷抑制 廃棄物処理負荷抑制 の配慮 振動・悪臭の防止 騒音		3.0 3.0 3.0 3.0 3.1	0.25 0.25 0.25 0.25 0.33		- - - -	3.1
	2.3	3 地域イ 2 3 4 環境への 騒音・ 1 2	雨水排水負荷低減 汚水処理負荷抑制 交通負荷抑制 廃棄物処理負荷抑制 D配慮 振動・悪臭の防止 騒音 振動		3.0 3.0 3.0 3.0 3.1 3.0	0.25 0.25 0.25 0.25 0.33 0.40		- - - - -	3.1
	2.3	3 1 2 3 4 環境への 軽音・1	雨水排水負荷低減 汚水処理負荷抑制 交通負荷抑制 廃棄物処理負荷抑制 の配慮 振動・悪臭の防止 騒音		3.0 3.0 3.0 3.0 3.1 3.0	0.25 0.25 0.25 0.25 0.33 0.40			3.1
	周辺 3 3.1	3 地域イ 2 3 4 環境への 騒音・ 1 2 3	雨水排水負荷低減 汚水処理負荷抑制 交通負荷抑制 廃棄物処理負荷抑制 D配慮 振動・悪臭の防止 騒音 振動	 	3.0 3.0 3.0 3.0 3.1 3.0	0.25 0.25 0.25 0.25 0.33 0.40		- - - - - - -	3.1
	周辺 3 3.1	3 地域イ 2 3 4 環境への 騒音・ 1 2 3	雨水排水負荷低減 汚水処理負荷抑制 交通負荷抑制 廃棄物処理負荷抑制 乃配慮 振動・悪臭の防止 騒音 振動 悪臭 砂塵、日照阻害の抑制		3.0 3.0 3.0 3.1 3.0 3.0	0.25 0.25 0.25 0.25 0.33 0.40 1.00		- - - - - - -	3.1
	周辺 3 3.1	地域イ 1 2 3 4 環境へ 経 1 2 3 風 害、 1	雨水排水負荷低減 汚水処理負荷抑制 交通負荷抑制 廃棄物処理負荷抑制 D配慮 振動・悪臭の防止 騒音 振動 悪臭 砂塵、日照阻害の抑制 風害の抑制		3.0 3.0 3.0 3.1 3.0 3.0 - - 3.0	0.25 0.25 0.25 0.25 0.33 0.40 1.00 - - 0.40		- - - - - - -	3.1
	周辺 3 3.1	地域イ 1 2 3 4 環境への 経音・ 3 3 黒 1 2	雨水排水負荷低減 汚水処理負荷抑制 交通負荷抑制 廃棄物処理負荷抑制 D配慮 振動・悪臭の防止 騒音 振動 悪臭 砂塵、日照阻害の抑制 風害の抑制 砂塵の抑制		3.0 3.0 3.0 3.1 3.0 3.0 - - 3.0 3.0	0.25 0.25 0.25 0.25 0.33 0.40 1.00 - - 0.40 0.70		- - - - - - -	3.1
	周辺 琢 3.1	地域イ 1 2 3 4 環境への 1 2 3 国事、 1 2 3	雨水排水負荷低減 汚水処理負荷抑制 交通負荷抑制 廃棄物処理負荷抑制 の配慮 振動・悪臭の防止 騒音 振動 悪臭 砂塵、日照阻害の抑制 風害の抑制 砂塵の抑制 日照阻害の抑制		3.0 3.0 3.0 3.1 3.0 3.0 - - 3.0 3.0	0.25 0.25 0.25 0.33 0.40 1.00 - - 0.40 0.70 - 0.30			3.1
	周辺 琢 3.1	地域イ 1 2 3 4 環境への 経音・ 3 3 黒 1 2	雨水排水負荷低減 汚水処理負荷抑制 交通負荷抑制 廃棄物処理負荷抑制 乃配慮 振動・悪臭の防止 騒音 振動 悪臭 砂塵、日照阻害の抑制 風害の抑制 砂塵の抑制 日照阻害の抑制		3.0 3.0 3.0 3.1 3.0 3.0 - - 3.0 3.0	0.25 0.25 0.25 0.25 0.33 0.40 1.00 - - 0.40 0.70 - 0.30 0.20		-	3.1
	周辺 琢 3.1	地域イ 1 2 3 4 環境への 1 2 3 国事、 1 2 3	雨水排水負荷低減 汚水処理負荷抑制 交通負荷抑制 廃棄物処理負荷抑制 乃配慮 振動・悪臭の防止 騒音 振動 悪臭 砂塵、日照阻害の抑制 風害の抑制 砂塵の抑制 日照阻害の抑制		3.0 3.0 3.0 3.1 3.0 3.0 - - 3.0 3.0	0.25 0.25 0.25 0.33 0.40 1.00 - - 0.40 0.70 - 0.30		-	3.1
	周辺 琢 3.1	地域イ 1 2 3 4 環境への 軽音・ 3 2 風害、 1 2 3 光害の 1	雨水排水負荷低減 汚水処理負荷抑制 交通負荷抑制 廃棄物処理負荷抑制 乃配慮 振動・悪臭の防止 騒音 振動 悪臭 砂塵、日照阻害の抑制 風害の抑制 砂塵の抑制 日照阻害の抑制		3.0 3.0 3.0 3.1 3.0 3.0 - - 3.0 3.0 3.0	0.25 0.25 0.25 0.25 0.33 0.40 1.00 - - 0.40 0.70 - 0.30 0.20		-	3.1

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	_	_	0	0	_	_	_	_	_					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	9.0		0	ŏ	ŏ	_	0	0	_	0	0	0	_	0	_
1.3.2 維持管理用機能の確保	6.0			_	ŏ	_	_	ŏ	0	Ŏ		_	_	0	0
2.4.1 空調•換気設備	3.0		_	0	_	0	0)						
2.4.2 給排水・衛生設備	3.0	3.0	0	_	0	_	Ö	_	_						
2.4.3 電気設備	4.0	3.0	Ö	0	ŏ	0		_							
2.4.5 通信•情報設備	3.0	0.0			ŏ		0	_							
Q3 室外環境(敷地内)	0.0														
1 生物資源の保全と創出	8.0		2.0	2.0	2.0	_	_	1.0	1.0	_	_	_	_		
2 まちなみ・景観への配慮	4.0		2.0	1.0	1.0	_	_	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	3.0			_	_	_	1.0	1.0	_	1.0					
3.2 敷地内温熱環境の向上	11.0		_	2.0	2.0	3.0	_	-	_	2.0	2.0				
LR1 エネルギー						0.0									
2 自然エネルギー利用	_		_	_	_	_	_	_	_	_	-	_	_	_	_
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			_	_	_	_	_	_	_	_					
2.1 材料使用量の削減	3.0		_	_	3.0										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			_	1.0	_	_	_								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		0	_	0	_									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	3.0														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	9.0		1.0	_	_	3.0	3.0	_	_	2.0	_	_			
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		_	_	1.0	_	1.0	_							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		_	1.0	1.0	1.0		_	_						
3.2.2 砂塵の抑制	_		-	ı											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0		1.0	2.0											
A. J. He 199															

-	+-	+6	一
土	'ሖ	扣	標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

3.1.1 昼光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

- 1.1.1 広さ・収納性
- 1.1.2 高度情報通信設備対応
- 1.2.1 広さ感・景観
- 1.2.2 リフレッシュスペース
- 2.2.1 躯体材料の耐用年数
- 2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔
- 2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔
- 2.2.0 工安設開版品の史利の安间幣 2.1.1 陛立の内とは
- 3.1.1 階高のゆとり
- 3.1.2 空間の形状・自由さ
- 3.2 荷重のゆとり
- Q3 室外環境(敷地内)
- 1 生物資源の保全と創出
- 3.2 敷地内温熱環境の向上
- LR1 エネルギー
- 1 建物外皮の熱負荷抑制
- 2 自然エネルギー利用
- 3 設備システムの高効率化 非住宅部分
- 集合住宅の評価 LR2 **資源・マテリアル**
- 1.2.1 雨水利用システム導入の有無
- 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用
- 2.5 持続可能な森林から産出された木材
- 3.2.1 消火剤
- 3.2.2 発泡剤(断熱材等)
- 3.2.3 冷媒
- LR3 敷地外環境
- 2.2 温熱環境悪化の改善

突シュニ / 00		突の口針熱取得変(の)
窓システムSC	_	窓の日射熱取得率(η)-

U値(W/m2K	窓システム -	屋根 -	外壁 -	床 -
住戸部分 :	窓システムU値 -	外皮UA値 -	η AC $-$	η AH $-$
			•	

昼光率 -自然換気有効開口面積率 -

執務スペース - /人 病床 - /床 シングル - ツイン -

 コンセント容量
 VA/㎡

 天井高
 m

 リフレッシュスペース
 レストスペース

想定耐用年数 - 年

 想定必要間隔
 35 年

 想定必要間隔
 20 年

 想定必要間隔
 年

 階高
 4.4 m

 壁長さ比率
 14.0%

 床荷重
 3900 N/m2

外構緑化指数 - 建物緑化指数 -

空地率 - 水平投影面積率 - 地表面対策面積率 - 舗装面積率 -

 BPI/BPIm
 0.60 断熱等性能等級
 対象外 相当

 自然エネルキー直接利用量
 0 MJ/年㎡
 採光を満たす教室数 - 採光を満たす住戸数 - 通風を満たす住戸数 - 通風を満たす住戸数 - 太陽光 - 太陽光 - 太陽熱等 - 蓄電池

 BEI/BEIm
 再エネ有
 0.59
 無
 0.59
 オフサイト再エネ有

 一次エネ削減率
 再エネ有
 無

雨水利用率 -

特定調達品目 ビニル床シート エコマーク商品 岩綿吸音板、舗装排始体指定の特定品目等

 使用比率

 オゾン層破壊係数(ODP)
 0
 地球温暖化係数(GWP)
 0

 オゾン層破壊係数(ODP)
 0
 地球温暖化係数(GWP)
 3

 オゾン層破壊係数(ODP)
 地球温暖化係数(GWP)

見付面積比 - 隣棟間隔指標Rw -

 地表面対策面積率
 屋根面対策面積率 外壁面対策面積率

 見付面積Sb
 卓越風向と直交する最大敷地幅Ws m
 基準高さHb m

 緑地
 m
 水面
 保水性対策面
 m^d 高反射対策面
 m^d 再帰性反射対策面
 m^d